

加古川の里山・ギフチョウ・ネット

楽しく、無理をしないで、加古川地域にすむギフチョウとヒメヒカゲを主とする希少なチョウの保護活動を継続し、里山の自然と生物多様性を維持する

- ◆ 継続的なチョウの生態観察・調査
- ◆ 定期的な里山の手入れ
- ◆ 次世代を担う子供たちの教育と啓発
- ◆ 他の地域の自然保護団体との交流
- ◆ 情報の発信（HP, Facebook, Blog）



加古川の里山・ギフチョウ・ネット <http://www.eonet.ne.jp/~t-takashi/>

但馬の蝶・播磨の蝶 <http://www.tateiwa-yu.sakura.ne.jp/>

につぼん蝶紀行 <http://chokikoh.net/>

2021年1月時点で53報の短報・論文を学術雑誌に発表

加古川は絶滅危惧選定の希少なチョウが 7 種も 生息する豊かな自然環境が残る貴重な地域

I 類(A): 絶滅の危機に瀕している II 類(B): 絶滅の危機が増大している
準絶滅危惧(C): 生息条件の変化で「絶滅危惧」に移行する可能性がある

注)()は兵庫県2012年レッドデータ分類



I B 類: ヒメヒカゲ (A)



シルビアシジミ (B)



ツマグロキチョウ (要注目)



II 類: ギフチョウ (B)



ウラナミジャノメ(B)



ウラギンスジヒョウモン(B)



キマダラルリツバメ
(準絶滅危惧; B)

年間活動スケジュール

4月：ギフチョウ観察会

5月：ギフチョウ産卵調査、幼虫調査

加古川市主催「チョウ観察ハイキング」支援（一般市民啓発）

5-6月：ヒメヒカゲ生息調査

ウラナミジャノメ、ウラギンスジヒョウモン

キマダラルリツバメの生息調査

5-7月：県外の自然保護団体との情報交換・交流活動

7月：ウスイロヒョウモンモドキ観察会

8月：青少年のための科学の祭典（青少年の教育と啓発）

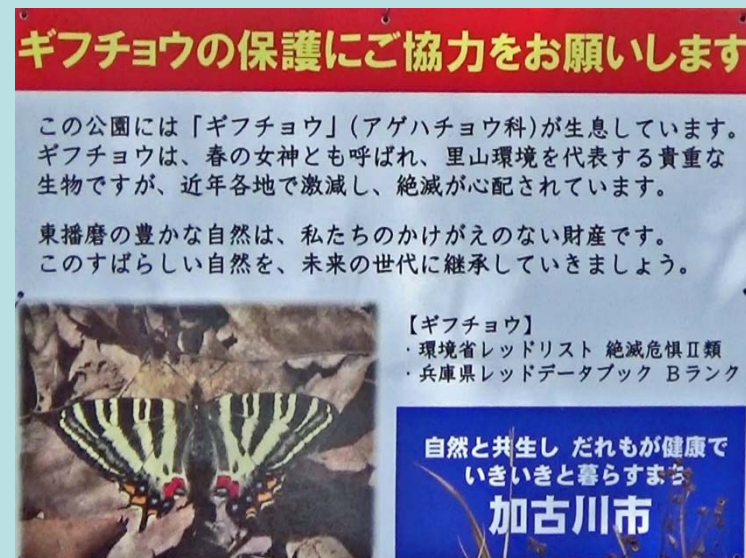
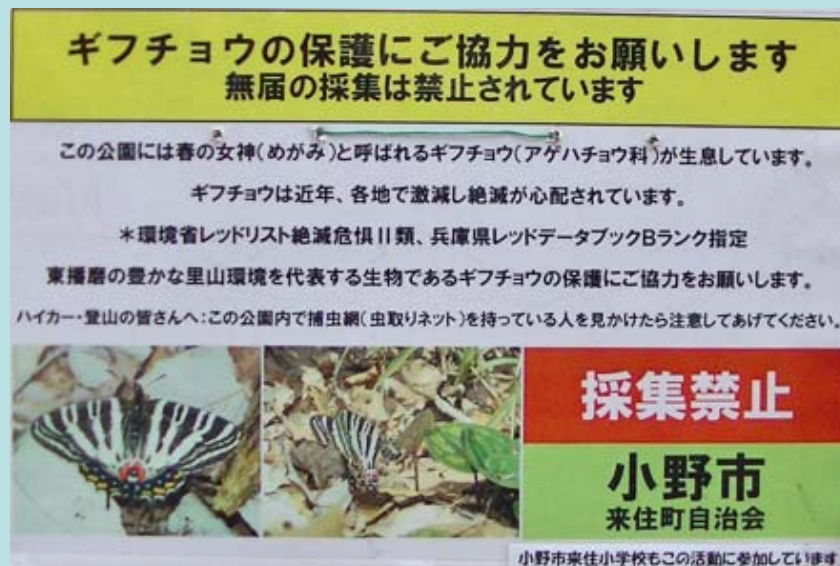
9月：ギフチョウ生息地下草刈り・枝打ち①

12月：ギフチョウ生息地下草刈り・枝打ち②

ヒメヒカゲ生息地環境整備

ツマグロキチョウ、シルビアシジミは 4-12月、随時調査

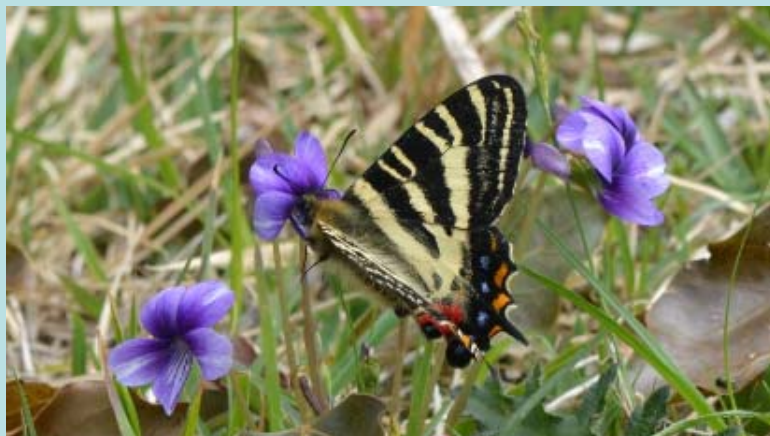
ギフチョウ保護の掲示板設置



2015年3月21日 来住小3年生と設置 2019年3月17日 城山公園 BanBanTV取材

ギフチョウ観察, 卵・幼虫調査

4月10-15日 ギフチョウ観察会

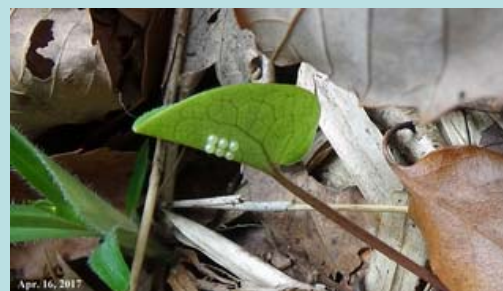


スミレの蜜を吸うギフチョウ



ギフチョウの交尾

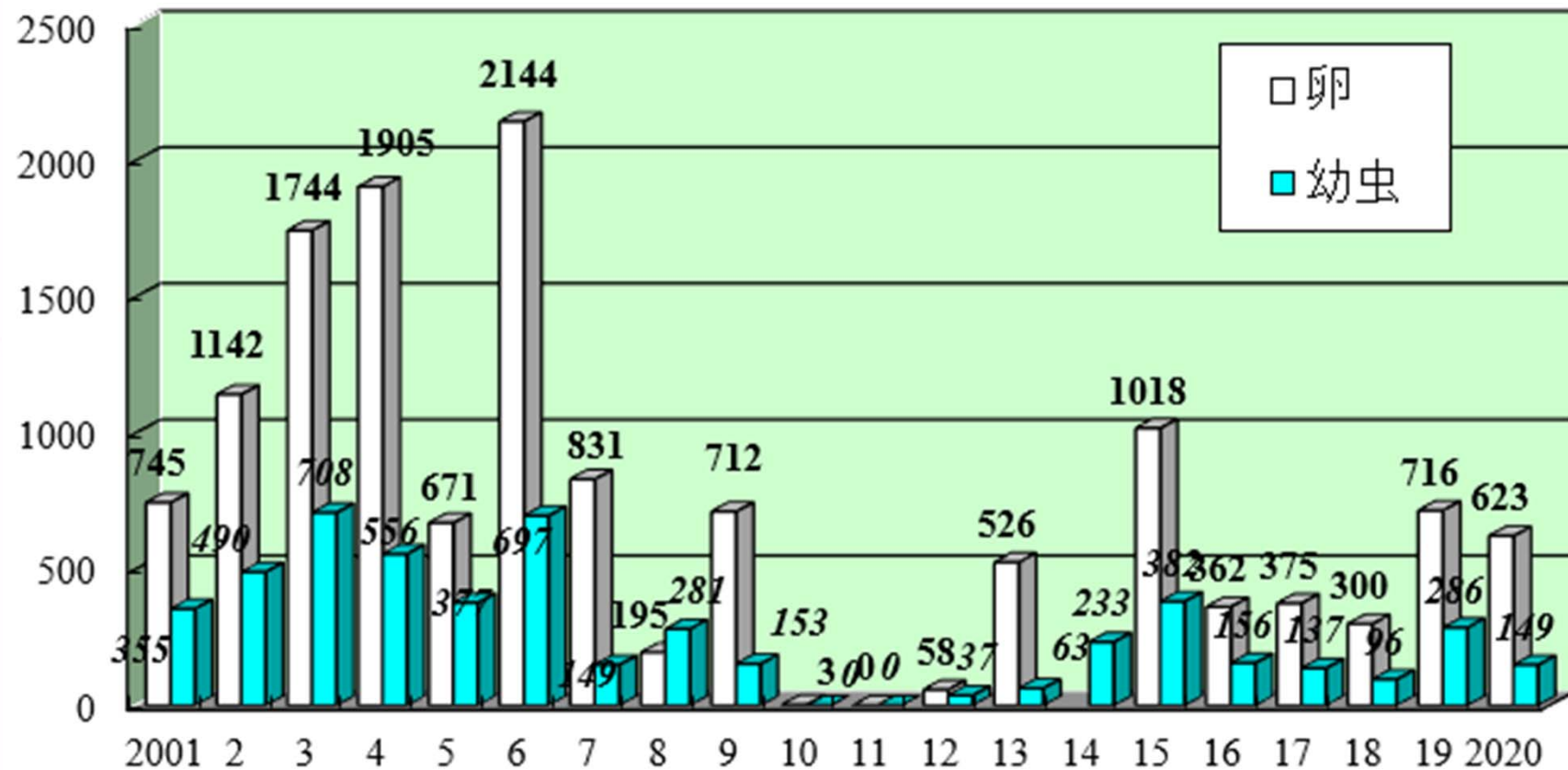
4月末、産卵調査



4月;5月 産卵・幼虫調査

ギフチョウ：卵,幼虫数調査結果

ギフチョウの卵・幼虫数経年変化



2010-2012年に絶滅の危機があったが、生息地の環境整備を継続した結果、徐々に回復の傾向がみられる。

加古川市主催「チョウ観察会」を支援

2019年から「チョウ観察ハイキング」



第7回 2008年4月27日 城山



第8回 2009年4月26日 城山



第9回 2010年4月25日 あたごの森



第18回 2019年5月18日 神吉山

ヒメヒカゲの生息調査

2008年5月から継続

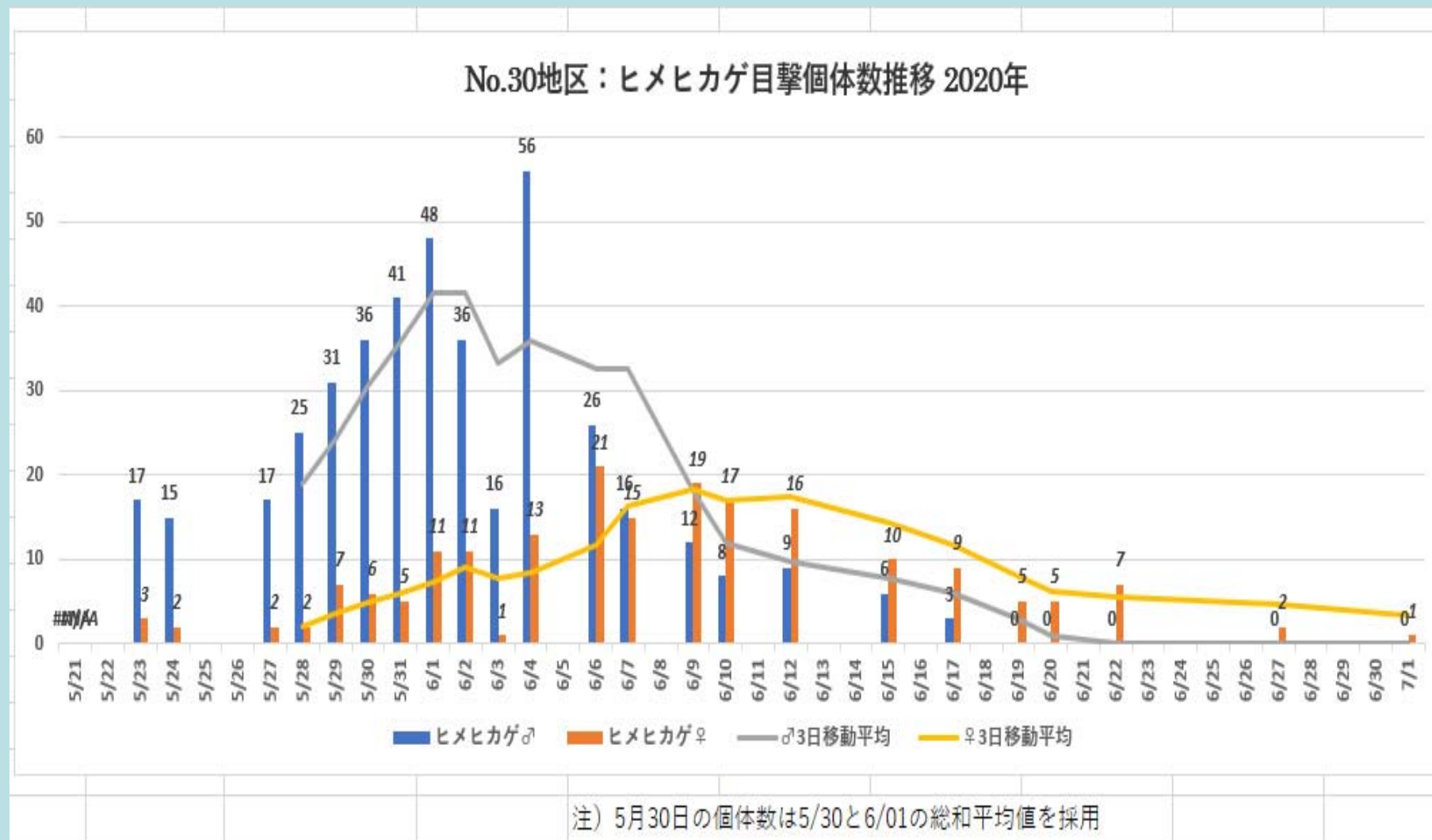


翅に記号をつけて生息数調査



自然羽化の記録を公表：やどりが, 2013 (237): 33-40 ;月刊むし, 2017(559): 40-42

ヒメヒカゲの生息調査の結果



6月上旬に♂の発生ピークが過ぎて、その後は♀の数が増えてくるのがよくわかる

ウスイロヒヨウモンモドキに絶滅の危機

絶滅危惧 I A類

シカによる食草や吸蜜植物の食害が主な要因



兵庫県での生息地は現在、ハチ高原(高丸山)だけとなっている

兵庫県砥峰高原で絶滅したチョウ

(絶滅危惧選定種)



July 13, 1980 兵庫県砥峰高原
ウスイロヒョウモンモドキ



I A類 ウスイロヒョウモンモドキ



July 4, 1982 兵庫県砥峰高原 ヒメヒカゲ

I B類 ヒメヒカゲ

感謝

島崎正美様

あなたは人と自然との共生
をめざす本博物館活動に深い
理解を寄せられ学術研究
への一層の発展に寄与する
貴重な資料を寄贈ください
ました
そのご厚志に対して深く感
謝します

平成19年8月19日

兵庫県立人と自然の博物館

館長 岩槻邦男

青少年のための科学の祭典

2008 年から継続

パネル展示：ギフチョウ等の保護活動紹介

生態写真集：生きたチョウの自然美を紹介

アルバム化：チョウの翅だけで標本作成

チョウと蛾：両者を混在させて判別テスト

ぬり絵：2018年から幼児・低学年向け



科学する心、集中力、忍耐力、創造力、分析力、観察力のアップ。
チョウとの触れ合いを通して、自然保護の大切さも学んでもらう。

ギフチョウ・ヒメヒカゲ生息地の環境整備

ギフチョウ生息地：9月と12月；ヒメヒカゲ生息地：12月 に実施



2015年9月13日 雑木林整備



2019年9月7日 雑木林整備



2009年12月13日 枝打ち整備



2020年12月5日 コロナ禍でも下草刈り

他の絶滅危惧選定種のトピックス-1

I 類: 絶滅の危機に瀕している

II 類: 絶滅の危機が増大している



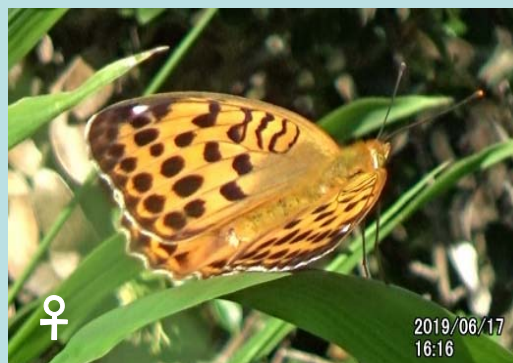
シルビアシジミ (I B類): 全国的に激減しているが加古川市には広く分布している。
2018年4月高砂市で59年ぶりに**新生息地を発見**: 月刊むし, (573):57, 2018



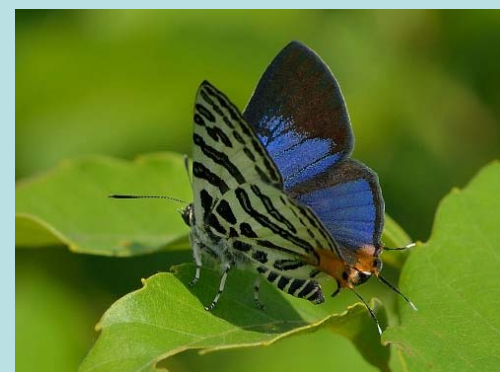
ウラナミジャノメ (II 類): ヒメヒカゲと同様、草原環境の減少で全国的に生息地が減っており、加古川でも減少が懸念される。2019年6月、野外で自然状態での蛹を**日本初の発見**、羽化の瞬間も**日本初撮影記録**: 月刊むし, 2019 (584):12-13

他の絶滅危惧選定種のトピックス-2

I 類: 絶滅の危機に瀕している II 類: 絶滅の危機が増大している
準絶滅危惧: 生息条件の変化で「絶滅危惧」に移行する可能性がある



ウラギンスジヒョウモン (II 類; B): 草原環境の悪化で全国的に激減しているが、加古川市には広く分布している。2018年5月に幼虫が**アリアケスミレ**を食草とすることを**兵庫県で初記録**: きべりはむし, 2018, 41(1):12-14



ツマグロキチョウ (I B類; 要注目): 成虫が確実に観察できる時期と場所は知られているが、**自然発生の場所が特定できていない。**

キマダラルリツバメ (準絶滅危惧; B): 2016年6月に**30年ぶりの発生を観察** 2020年6月も継続発生を確認。